

こたばの力 からだの力 こころの力  
園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和4年4月28日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

「ゴールデンウィーク」



新たな世界との出会い、誰もが「どきどき」「わくわく」の4月でしたが、少しお疲れも出てくる頃でしょうか。

園では、一人一人の子どもたちの理解を深めるため、教職員で情報共有する場を設けています。多様な視点からの情報は、子ども理解にはとても大切です。「どんな遊びが好きなのかな」「どんなときに夢中になるのかな」まずは、子どもたちの得意分野？からのアプローチをしています。

教育哲学者 林竹二は、「学んだことの証はただ一つで、何かが変わることである」といいました。また、「学ぶということは何かが始まるということ」とも。

さて、拙論ですが、「幼児期の65か月あたりから、自己の変容に気付き始める」という実践的研究を行いました。見事に65か月頃から「前にできなかったけど、できるようになった」とつぶやき始めます。4歳児では、まだ「今できた」という自己評価のみで、以前と今とを比較したり関連付けたりすることは不確かです。

3歳児、4歳児があつて5歳児の時を迎え、自己の変容に気付くという、何かが変わりだす「学び時」を迎えるのです。実におもしろい。

引用文献 太田友子 (2019)

博士学位論文『幼児期におけるメタ認知の発達と育成に関する研究』

本園では、この発達の道筋を踏まえながら、子どもたちとの対話による言語活動を大事にして保育を積み重ねています。

さて、明日からお休みが続きます。子どもたちとゆったり語り合ってみてはいかがでしょうか。子どもたちへの一番のプレゼントとなることでしょう。



「育つ幼稚園」

子どもと未来のために、アクションを始めよう！今、思案中です。

乞うご期待！



年長児は今！

小学校につながる学びの基礎を培っています。

日々の保育記録から一部ご紹介しましょう。どの保育記録からも、子どもたちの興味関心を引き出し、子どもたちの発言をつなぎながら、新たな気づきや発見ができるように導いていることがお分かりいただけるとと思います。これを、幼児期に求められる環境を通した総合的な指導と言います。



戸外遊びには図鑑を持っていったことで、いつもよりも花や虫を探すことを楽しむ姿が見られた。主にダンゴムシであるが、ただ見つけるだけではなく、図鑑を見ながらオスカメスカ違いを見たり、体のつくりを見たりして発見を楽しむ様子が見られた。図鑑があることで、子ども達の新しい発見に繋がるのがよくわかった。

今日は、Fくんが家からダンゴムシを持ってきた。Fくんが「虫を観察したい」とめあてを決めて発表してくれた。「どんなふうに観察したいのか」と聞いてみると、「どこにいるか」「何をしているか」を観察するということであった。「何を食べるのか」と質問すると、「虫やで！」「甘い物じゃないん？」と面白かった。絵本や図鑑なども用意していきたい。



朝の会で、Kちゃんが「友達の凄いところを見つけたい」と発表してくれた。このように楽しいめあてや頑張りたいと思えるような発言が出て来て嬉しく思っている。話し合っただけで今日は、「クラス全体で凄いところを見つけられる」ように声を掛けた。帰りの会では、振り返り後、クラス全体や個々での今日の保育で凄かったところを具体的に伝えた。子どもたちにもまた明日の振り返りでも話を深めていきたい。

つつじの花をつみに行った際は、年少さんと手を繋ぎ優しく誘導してあげる姿が見られた。歩道橋の歩き方も年少さんに合わせる事ができていた為、怪我もなく楽しんで行くことができた。行く前に図鑑でつつじの花を見てから行った為、名前と実際のつつじを確認する子どももいた。実際には図鑑に載っていなかった白色のつつじもあり、発見を楽しんでいた。戸外遊びでは、つんできたつつじで色水を作ってジュースに見立ててままごとをして楽しんでた。これからも子ども達と一緒に春ならではの自然に触れていきたいと思う。